

## 7月

けだるい暑熱の夜のしじまを  
なま温い微風はどんよりと流れ  
行き止まりに疲れ果てた心に  
反逆と美の音楽が暴力的に流れ

ひそやかな抒情を奏でようとする風鈴を  
破壊への渴望が無残にも打ち消し  
不気味な低音は星ひとつない空の下  
来るべき破滅への歓喜に狂い震える

ああ、虐げられた炎よ  
もっと深く底知れぬ闇を取り戻せ、そして  
新たなる原始への予感に満ち溢れた世界へと  
ああ、この俺を連れ去るがいい

(1985.7.26)